

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成16年11月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成16年10月分(平成16年10月4日~10月31日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1	0.00	0.00		12	ヘルパンギーナ	40	0.11	0.22	↓
2	RSウイルス感染症	5	0.01	-		13	麻疹	1	0.00	0.01	
3	咽頭結膜熱	75	0.20	0.15	↓	14	流行性耳下腺炎	315	0.84	0.59	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	128	0.34	0.70	↘	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,091	2.91	3.20	↘	16	流行性角結膜炎	129	1.29	1.13	↘
6	水痘	177	0.47	0.81	↘	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
7	手足口病	65	0.17	0.53	↘	18	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.11	
8	伝染性紅斑	13	0.03	0.01	↓	19	マイコプラズマ肺炎	33	0.31	0.15	↗
9	突発性発しん	181	0.48	0.81	↘	20	クラミジア肺炎	0	-	0.00	
10	百日咳	7	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	-	0.00	
11	風しん	2	0.01	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↘	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感染症	50	1.85	2.63	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	109	5.19	-	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.56	0.53	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	54	2.57	-	↑
24	尖圭コンジローマ	14	0.52	0.35	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	12	0.57	-	↗
25	淋菌感染症	15	0.56	1.16	↗	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

咽頭結膜熱	急減（9月237件 10月75件）
伝染性紅斑	急減（9月38件 10月13件）
ヘルパンギーナ	急減（9月155件 10月40件）
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	急増（9月26件 10月54件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし

二類感染症 1件発生（コレラ 1件（広島市保健所管内））

三類感染症 12件発生（腸管出血性大腸菌感染症（O157 7件（広島市保健所管内2件，福山市保健所管内3件，備北地域保健所管内1件，呉地域保健所管内1件）
O26 4件（広島市保健所管内1件，福山地域保健所管内3件）
O121 1件（呉市保健所管内））

四類感染症 1件発生（オウム病 1件（広島地域保健所管内））

全数把握五類感染症 8件発生（後天性免疫不全症候群3件（広島市保健所管内），アモeba赤痢1件（広島市保健所管内），ウイルス性肝炎（B型）3件（福山市保健所管内2件，広島市保健所管内1件），急性脳炎1件（広島市保健所管内）

3 一般情報

これから流行が考えられる感染症の主なものは、インフルエンザ，水痘，感染性胃腸炎，流行性耳下腺炎等が発生する季節になりましたので注意が必要です。

水痘（水ぼうそう）

水痘の定点当りの患者数は，第41週が0.49人，第42週0.39人，第43週0.73人，第44週0.75人と増加傾向にあります。保健所管内定点当りでは，第44週では，広島地域管内が1.56人，備北地域管内が1.25人，福山市管内が1.22人で患者数が多い地域となっております。

病原体：帯状疱疹ウイルス 感染経路：飛沫あるいは飛沫核による空気感染 潜伏期間：10～21日 症状：発熱（70%），倦怠感，発疹で発疹が赤くなり2～3日のうちに水泡，膿瘍，痂皮の順に進行し，3日ほどで皮疹が新生する。 好発年齢：乳幼児，学童 健康な場合予後は良好である。免疫低下・免疫異常状態では経過が長引き重症化して予後不良になる場合がある。

インフルエンザワクチンの在庫調査結果

広島県では、需給調整を行うため、ワクチン接種する約3,000医療機関の中から603施設を対象に月2回在庫調査を実施しております。その結果は次のとおりです。

・インフルエンザワクチン在庫等の状況（平成16年10月15日現在）

第二次医療圏	在庫本数	接種者数	接種予定者数	納入予定本数
広島	21,228	1,477	83,528	92,046
広島西	2,723	601	7,865	7,363
呉	3,153	446	15,169	10,975
広島中央	4,338	1,008	20,246	17,970
尾三	5,728	1,146	21,648	19,131
福山・府中	5,972	511	14,914	7,503
備北	1,815	690	10,595	7,200
合計	44,956	5,879	173,965	162,188

・抗ウイルス薬の出荷計画（*供給可能量は広島県人口比にて算出）

	供給可能量*	卸店出荷可能量 （生産量）*	初回出荷量 （11月15日）	初回出荷量+現卸 店在庫量
全国	1,500万人分	1,045万人分	251万人分	407万人分
広島県	34万人分	24万人分	6万人分	14万人分

今シーズン供給可能量は昨年度の卸店在庫を含む

インフルエンザの予防接種を受けましょう

毎年、インフルエンザは発生し、流行状況の大小はありますが、感染した場合、重症化し脳炎や死亡する場合があります。

予防接種を受けてから免疫力が上昇するまで2週間程度かかります。

予防接種の効果は5ヶ月程度持続しますので、早めに予防接種を受けて流行に備えましょう。

例年、インフルエンザの流行は、11月～12月にかけて始まり、1月下旬から2月上旬をピークに減少していきますので、早目に予防接種を済ませることが重要です。

できれば12月末までに予防接種を済ませましょう。

各医療機関では、インフルエンザの予防接種が実施されております。事前に電話等で予約等を行い受診してください。